

くらしを支える税

南房総市立富浦中学校 3年 鈴木 俊祐

小さな頃から、私は図書館が好きでした。週末になると訪れては、司書さんの読み聞かせを聞いたり、分からないことがあると本を使って調べたりしました。無料でたくさんの本を読むことができ、それだけでなく借りて持ち帰ることもできる、これは図書館だからこそできることです。図書館は、私にとって心地よく読書を楽しむことのできる、お気に入りの場所です。

調べてみると、私の住んでいる市の図書館は、バリアフリーや多様性の視点からも考えてつくられていることを知りました。例えば、車いすを使っている方のために階段や段差のある所にはスロープが設けられていたり、海外の方でも利用することができるように多くの言語に対応した案内システムや本が用意されていたりします。たくさんの場面で様々な人々が、過ごしやすいつ感じられるように工夫がされていました。

このような、素敵なお場所をつくるには莫大な費用がかかります。そのお金はどこでまかなわれているのでしょうか。それは、税金です。

先日、私の中学校で租税教室がありました。その教室の中で、今までの自分が多くの場面で税金に支えられていたことを感じました。警察や消防、ごみの収集と処理などの公共サービス。医療機関で診察を受けた際の医療費助成制度。交通の安全を守るために行われている信号機や道路の整備。これらの費用がすべて税金によってまかなわれていることを知り、驚きました。

税金がなかったらどのような世の中になっているでしょう。その世界には、おそらく学校も役所も図書館さえありません。私たちは今と同じ生活を続けることができないのです。日常の中で不安や危険に出会うことが増え、それらを個人の力で改善していくしかなくなってしまいます。

今まで私は、税金なんてたくさんのお金を払って、自分たちの負担になっているだけだと考えていました。しかし、世の中への税金の役割や貢献を知ったことで、自分が納税をする意義とその大切さを感じました。税金が私たちの生きる世の中を支えているのです。

私は、まだ未成年者であり中学生でもあるため、多額の納税をしたことはありません。しかし、大人になるにつれて、多くの場面で税金を納めることになります。その時のためにもこれからは、どのような種類の税があり、世の中でどのように活用されているのかを、学んだうえで納めていきたいと思いました。

私たちが普段利用している公共施設と制度は、大人の方々が納めてくださっている税金のおかげで、利用することができるものだと思います。これから、感謝の気持ちを持って、納税の義務を果たすことのできる大人になりたいです。